Challenge 4
環境／Environment

ステークホルダーと連携・協働しながら環境負荷削減に挑む

ファーストリテイリングは、SPAとして服の企画から生産、物流、販売、さらにリサイクルにいたるまで、すべてのプロセスを一貫して管理しています。そうしたサプライチェーン全体をとおして発生する環境への負荷を深く認識し、それらの削減に取り組むことが、衣料の生産や販売に携わる事業者としての責任であると考えています。

Environmental Activities

SPAすべてのプロセスで環境負荷低減に取り組む

服の企画から生産、物流、販売、さらにリサイクルにいたるまで、SPAすべてのプロセスを通して発生する環境への負荷を深く認識し、積極的に環境負荷の低減に取り組むことが、私たちの責任だと考えています。

ファーストリテイリングの環境に対する考え方

天然・化学繊維の栽培・製造から、商品の廃棄まで。ファーストリテイリング（FR）は、すべての過程において環境影響を正確に把握し、資源を無駄にしない、無駄なもの・有害なものを出さない服づくりを目指します。事業活動のなかでも特に環境影響の大きい「商品の生産工程」から重点的に取り組み、環境負荷を削減します。また、環境問題の解決に向けて、お客様・地域社会・従業員とともに、広がりを生む取組みを行います。

FRでは、「生産パートナー向けのコードオブコンダクト（CoC）（19ページ参照）」を制定し、2004年から、環境保護に関する項目を含む労働環境モニタリングを縫製工場に実施しています。さらに2010年からは、その前段階の素材工場に対して独自の環境基準による環境モニタリングを開始しています。

●服づくりのライフサイクルにおける環境対応

原材料
生産パートナーとともに、最適な原材料を効率的に調達

素材生産・染色・加工など
事業フロー中で最も環境負荷が高いとされる素材生産工程について、危険化学物質排出ゼロを目指し、環境モニタリングなどを実施

縫製
縫製工場では環境保全分野の項目を含めた労働環境モニタリングの実施と状況確認を徹底

物流
生産地から販売地までの物流プロセスにおいて、段ボールの軽量化やリユースなどの簡素化、積載効率を高めることで、環境負荷と物流コストを低減

販売・回収
店舗では省エネルギーを推進。2006年からユニクロで始まった「全商品リサイクル活動」は、現在ではユニクロとジーユーで販売する全商品を回収し、グローバルでも取組みを開始

リユース・リサイクル
回収した商品の約75％は、難民キャンプへの寄贈などでリユースし、残りは燃料化・繊維化して活用

Environmental Monitoring

「素材工場向け環境基準」にもとづき継続的に環境モニタリングと負荷削減を推進

すべてのプロセスにおける環境への負荷を削減するため、直接のパートナー工場である縫製工場だけではなく、その前段階の素材工場に対しても、環境モニタリングを実施。「2015年までに遵守率100%」を目標に、外部専門機関とともに、モニタリングと改善指導を強化しています。

素材工場の環境モニタリング

2010年に作成した「素材工場向け環境基準」は、環境管理体制、化学物質の管理、廃棄物の管理・処理、アスベスト・PCB、排出物（排水など）の処理・測定、従業員の健康・安全に関する基準を定めています。この基準にもとづき、外部専門機関が工場をモニタリングし、ファーストリテイリング（FR）が結果を工場にフィードバック。工場は、合意した期間内で改善に取り組み、FRのCSR部従業員がその進捗を確認し、必要に応じてアドバイスを提供します。

2010年6月から2011年3月にかけて、ユニクロに素材を提供している75工場に対して初回のモニタリングを実施。2011年から2012年にかけ、そのうちの17工場に対してフォローアップモニタリングを行いました。問題があった工場に対しては、2011年9月から2012年8月にかけて、専門機関とともに2工場への工場現場での研修と、6工場へのグループセミナーを提供し、問題と解決方法の情報共有を徹底しました。

今後の目標は、「2015年までに遵守率100%」にすること。化学物質管理、廃棄物管理、従業員の健康安全については重点項目として、特に改善指導を強化していきます。さらに、素材工場のエネルギー・水使用量把握、環境NGOとのエンゲージメントによる課題解決、問題のある全工場でのトレーニング提供、全ブランドへのモニタリング拡大などに取り組んでいきます。

環境モニタリングの改善事例

●作業環境測定や健康診断の受診（中国）
法律では、化学物質を扱う、騒音が発生するなどの工程で、有害物質や騒音の測定を行うこと、従業員が職業病の健康診断を受診することが定められているが、ある工場では従業員が通常の健康診断しか受診していなかった。FRのCSR部従業員は、具体的な対応手順（測定・健康診断の資格を持つ当局に問い合わせるなど）について情報を提供し、測定結果・健康診断結果を受領し、確認。フォローアップモニタリングでも改善を確認した。

●化学物質保管・使用場所整備（中国）
化学物質の保管・使用場所に取扱説明書が掲示されていなかったため、工場の従業員が理解できる言語で必要な内容をわかりやすく掲示した他、化学物質の流出防止の受け皿と、緊急時に眼や体を洗浄するためのシャワーを設置。フォローアップモニタリングでも改善を確認した。

●廃棄物分別の徹底（中国）
段ボールなどの一般廃棄物と廃染料などの廃棄物が工場内に分別されずに保管されていた他、染色不良のため廃棄となった布が屋外に捨てられていた。FRは、廃棄物については分別を徹底する他、保管場所を屋内に確保するよう工場に指導し、改善を確認した。

●「素材工場向け環境基準」遵守状況（2012年8月末時点、初回モニタリング実施75工場のうち継続供給先60工場）

カテゴリー	遵守率	改善確認項目事例
環境管理体制	88%	•環境担当者任命　•環境マネジメントのトレーニング実施　•環境マネジメント計画の策定
化学物質の管理	48%	•詳細情報含む化学物質リスト作成　•化学物質の安全な保管（例: 漏出防止容器設置、ラベリング、管理担当者任命、安全情報収集・共有）
廃棄物の管理・処理	45%	•資格保持業者への廃棄物引き渡し　•分別（例: 化学廃棄物と他の廃棄物）とラベリング　•廃棄物の安全な保管
アスベスト・PCB	100%	•アスベストとPCBの適切な確認と管理
排出物（排水など）の処理・測定	87%	•汚染排出許可証など当局からのライセンス取得　•施設からの排出測定と法令基準の遵守
従業員の健康・安全	50%	•保護装具（マスク、耳栓、手袋）の着用　•非常口・火災安全設備の整備　•職業病健康診断の実施

Eliminating Hazardous Chemicals

危険化学物質の排出撲滅に向けて徹底した管理・取組みを実施

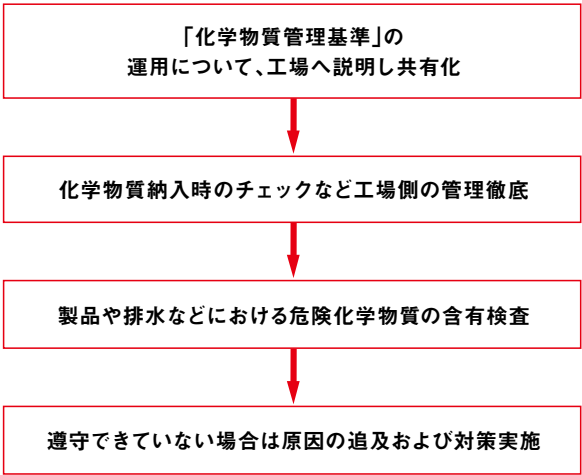
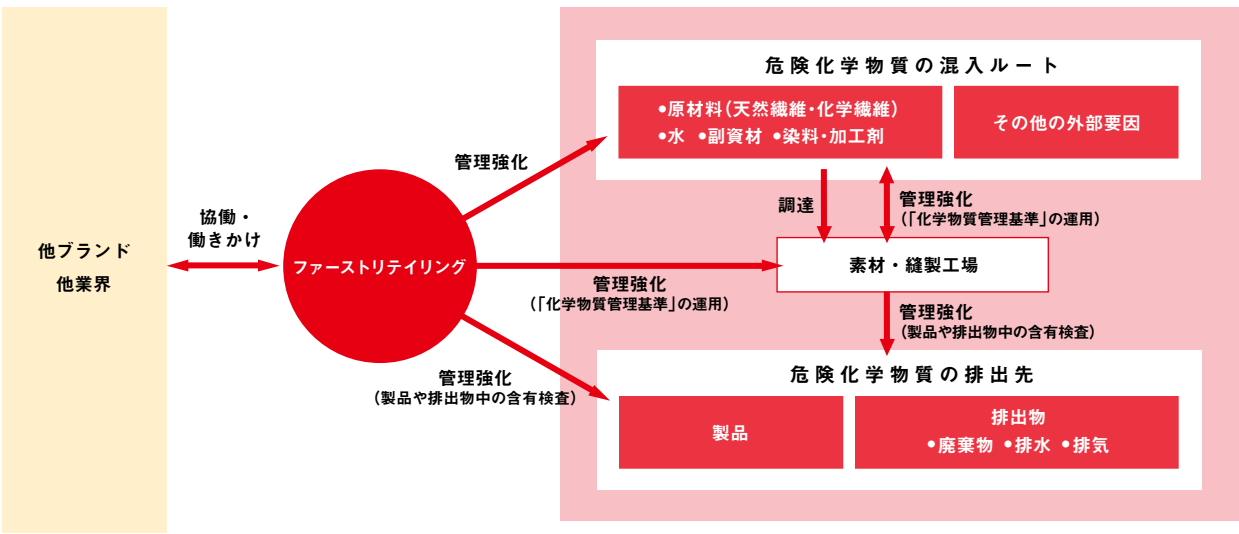
2012年に「化学物質管理基準」を改定し、改定基準にもとづく危険化学物質の含有検査を開始しました。衣料業界におけるリーダーとして、環境負荷の問題についてリーダーシップを発揮し、取引先の皆さまとともに対応を進めていきます。

危険化学物質排出ゼロに向けた取組み

FRでは、予防原則にもとづき、ライフサイクル全般にわたる危険化学物質の排出がゼロになるよう取組みを進めていきます。その一環として、2012年に、販売国すべての安全基準のうち最も厳しい基準に合わせて作成している「化学物質管理基準」を改定し、取引先への説明会を開催しました。

製品については、2012年9月から改定後の基準にもとづき危険化学物質の含有検査を開始しています。排水については、2012年中にパイロット検査を実施し、プログラムを修正し、本検査を開始する予定です（2012年8月時点で4件実施済み）。

2013年以降は、副資材などの検査も開始。検査の結果にもとづき、生産工程で使用する原材料や化学物質などの他に危険化学物質が混入する可能性について、調査を実施します。

●「化学物質管理基準」運用の流れ

●危険化学物質排出ゼロに向けた取組み概念図

環境への責任

ファーストリテイリングは、環境に関する法令を遵守し、国際社会が抱える課題や地球環境にも留意した行動を心がけます。企業として環境負荷を最小限に抑えるためにまずできることは、経営の効率化と考え、無駄な業務を行っていないか、最小限の資源で最大の付加価値を提供するためにはどうしたら良いかを常に考えて行動しています。

環境に対する考え方

ファーストリテイリング（FR）は、SPAとして服の企画から生産、物流、販売、さらにリサイクルにいたるまで、すべてのプロセスを一貫して管理し、さまざまな工程での環境負荷低減を図っています。

また2006年よりユニクロで開始し、現在ではユニクロとジーユーで実施している「全商品リサイクル活動」のように、本業を通じて、お客様と一緒になって取り組める、本当に効果が実感できる活動も継続して推進していきます。

商品における環境配慮 A

ヒートテックやドライなど、最先端の素材を使用する衣服を提供することで、人々は温かさや、涼しさを感じることができます。それはすなわち、衣服を通じて人々の快適な暮らしに貢献することであり、そういった商品を開発し、提供していくことも、環境への配慮だと考えています。

危険化学物質の排出撲滅 B

2011年8月12日、FRは商品のライフサイクルを通して危険化学物質の排出撲滅を目指すというポリシーを宣言し、取組みを推進しています（詳細は37ページ参照）。

物流での省エネ・省資源活動 C

高効率な物流体制の構築を目指し、常に物流フローの見直しや改善に取り組んでいます。

倉庫（拠点）から店舗への配送が物流の大部分を占めていますが、国内ユニクロなどの運送網が整備されているブランドについては、さらなる合理化を進めて、コスト削減とエネルギー削減を推進します。また、急激に配送量の増えているジーユーなどについては、商品の安定供給を踏まえた効率良い物流フローを構築することが課題です。

一方、商品を梱包する箱については、2006年より商品配送用段ボール箱の重量を見直し、15%の軽量化を図ることでコストと資材の削減を目指しています。また商品の箱詰め方法の工夫によって、一つの段ボール箱に入れる商品の点数を増やし、全体の箱の数量を減らす取組みも、引き続き実施しています。

使用する段ボール箱は、生産工場から出荷時に用いたものを、倉庫から店舗へと配送する際に再利用するよう努めています。また、段ボール箱の再利用促進のため、工場から倉庫へ出荷する際の箱のサイズを統一するなどの取組みも行っており、年々、使用する箱の数は減少しています。こうした取組みによって、現在、同じ種類の商品の色・サイズ違いをまとめて入れる段ボール箱の約50%は、再利用の箱を使用できています。

この他、工場出荷時に使用する商品の梱包材については、可能な限り減らすなど、省資源の取組みも行っています。

●省資源の取組み事例

フランネルシャツの梱包時の箱を廃止

ソックスの梱包をビニール袋から紙帯に変更

オフィスでの省エネ・省資源活動 D

FRの本部は固定席ではなく、グループアドレス制を導入したオフィスです。部署変更や人員増などに伴うレイアウト変更時に発生しやすい、備品や資源の無駄を省き、従業員がオフィスを自由に動き、コミュニケーションがとりやすい場にしています。

こういったオフィスでの効率的な業務を考え、メーカーと共同で開発したプリンターを導入。いつでもどこでも必要なときに自分の印刷ジョブを出力できるプリンタになり、また無駄な出力も減らすようになりました。ファクスについても同様で、ペーパーレス化も進めています。

またグローバル化に伴い、各国事業を支えるサーバ群を一つに統合することで、スピーディな新規国出店を実現することに加え、効率化、コスト削減、電力使用量の削減を実現。今年度に各国のユニクロ事業は統合が完了し（ロシアは2013年度）、2013年度にはジーユーの統合完了と、その他グループブランドの統合に着手します。

店舗での省エネ・省資源活動 E

ユニクロとジーユー全店に「店舗における省エネ・省資源マニュアル」を配布し、電力使用量などの削減を徹底的にチェックしています。店舗における電力使用量は、照明が約6割、エアコンが約4割となっているため、それぞれについて、使用量削減の取組みを進めています。

エアコンについては、設定した時間にエアコンのスイッチが切れるなど、温度設定管理などを行うエアコンコントローラーをメーカーと共同で開発。国内ユニクロの全ロードサイド店に導入が完了しています。

一方、照明については、準備時間帯の照明は営業時間帯の60%減として照明量の調節をするなど、節電も心がけています。

照明器具のLED化は、まず、国内ユニクロのロードサイドの看板について、導入を始めました。今後は、新店や、既存店の器具交換のタイミングで順次LEDに交換していく予定です。

店内の照明については、演出照明のLED器具は内容もコストも要望にかなったものになってきており、ユニクロやジーユーにおいて、その導入を検討しています。また間接照明についてはユニクロ銀座店にてLED化のトライアルを実施しており、2013年春頃からユニクロやジーユーの新店で導入予定です。

ロードサイド店舗のLED看板

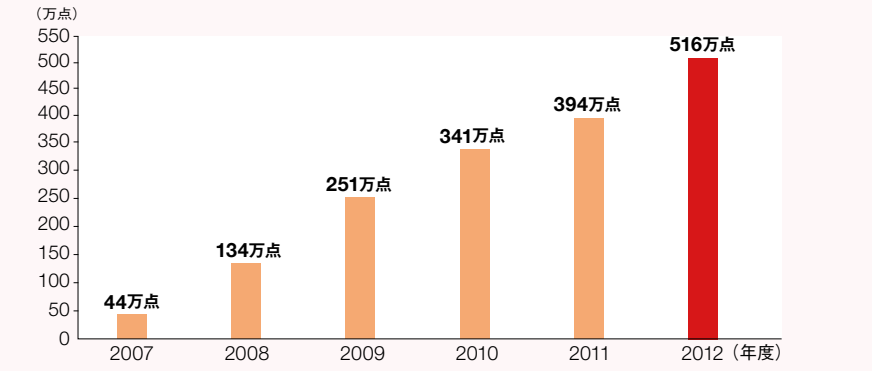
ユニクロ銀座店のLED間接照明

リサイクル回収ボックス

リサイクル活動と廃棄物削減 F

ユニクロとジーユー全店では、お客様からご不要となった衣料をお預かりし、リユース・リサイクルする活動を実施。回収地域は、日本、韓国、英国、米国、フランス、シンガポールに加え、2012年3月からは、上海、香港、台湾でも始まりました（詳細は21～23ページ参照）。

また、店舗から出る廃棄物の99%が、納入される商品を梱包していた段ボール箱とビニール袋です。現在、国内ユニクロ店舗の58%では、協力会社による廃棄物の回収ができており、資源を有効活用できるものはリサイクルへまわし、毎月それらの報告も受けています。今後は、残りの店舗についても、自社回収ならびに回収状況把握を推進していきます。

●「全商品リサイクル活動」回収点数推移

●資源有効リサイクルフロー（段ボール箱、紙ゴミの場合）

●事業活動に伴う環境負荷

※原則、2012年度の数値を記載しています　※本部オフィスのデータは、山口本社と東京本部の数値です　※容器包装は、国内ユニクロ・ジーユーにおけるショッピングバッグ（紙・ポリ）使用量です
※物流データは2011年4月～2012年3月までのデータです　※店舗データは、テナントとして入居している一部の店舗については含まれません　※1 国内ユニクロのみの数値　※2 2012年8月末までに回収物選別所に届いた商品が対象